

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773000688		
法人名	株式会社ライフサポートジャパン		
事業所名	グループホームゆうとび庵大阪・淡路		
所在地	大阪府大阪市東淀川区東淡路5丁目8番38		
自己評価作成日	2021年11月1日	評価結果市町村受理日	令和5年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和4年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔多く、明るく、アットホームな施設を目指し、また、ご利用者、ご家族、職員が一つになれるような関係づくりを大切にしています。施設で調理し提供している食事については通常のメニューの他にも季節料理やリクエストメニューなども提供しています。地域とのつながりという点では地域の集い場での講演会やいきいき体操への参加、地域ボランティアの受け入れ、また様々な他職種連携の連絡会へも参加し地域との関わりを大切にしています。地域の児童デイサービスさんとの交流会も定期的に開催し、季節行事などをご利用者と子供さんが一緒に楽しんでいただけるような機会を設けています。認知症介護の事業所としても認知症サポーター養成講座や勉強会を開催し、内部外部の皆さんへのスキルアップの場を提供させていただいています。職場づくりという点では、ユースエール企業認定、男女いきいき元気宣言事業者、男女いきいきプラス事業者、女性活躍リーディングカンパニー認証を受けるなど、働く側にとっての環境づくりにも力を注いでいます。今後も皆様に愛されるグループホームになれるよう取り組んで参ります。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い生活空間を確保し、利用者がゆったりと過ごせる居場所づくりを行っている。各種会議・委員会活動を通して、利用者尊重・生活の質向上・利用者個々の現状に即した個別支援に取り組んでいる。季節料理や郷土料理を含む手作り調理に加え、食事・おやつレクリエーションでは利用者参加型の企画やデリバリー等で利用者の希望やイベント食を取り入れている。季節の飾りつけを行い、月替わりの湯を企画する等、季節感を大切にしている。PDCAサイクルにもとづいたケアマネジメントが職員にも定着し、記録も整備されている。体操や生活リハビリ、合同・個別レクリエーション、家事参加等、利用者個々に応じた日中活動を支援している。研修体制を整備し、各種事業所認定を取得して働きやすい職場環境作りに努め、職員の定着もよく、利用者・家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己評価	外部評価部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念や基本方針、目標を意識できるよう各所に掲示し、また、基本方針を基にした目標を設定し実践に取り組んでいます。	法人の理念を「より良い介護、感動ある介護」とし、事業所の基本方針を8項目の具体的な内容で作成し、その中に地域密着型サービスの考え方を盛り込んでいる。理念・基本方針を玄関フロア・事務所・各フロア・研修室に掲示し、理念は事業所の表玄関の門にも掲示し共有を図っている。理念・基本方針をもとに、毎年、事業所の年間目標と各フロアの年間目標を設定し、職員間で共有して理念・基本方針の実践に向け取り組んでいる。年度末のフロアミーティングでフロア目標についての振り返りを行い、次年度の目標設定につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	児童デイサービスとの交流会や地域ボランティアの受け入れ、地域行事や地域の認知症カフェへの参加等も実施しています。買い物や喫茶の利用も近隣を利用し馴染みの関係が築けるよう取り組んでいます。	コロナ禍のため通常の地域交流や地域貢献は困難な状況であるが、手作りプレゼントの交換で児童デイサービスとの交流を継続する等、可能な方法を工夫している。地域の集会場での「いきいき体操」の会に職員が参加して認知症等について説明したり、自治会や地域包括支援センターを通して認知症相談窓口としての事業所の機能を案内する等、地域に向けた発信にも取り組んでいる。「こども110番」への登録やAED設置の案内も継続している。また、状況を勘案しながら、近隣のコンビニエンスストアやスーパーに、利用者と一緒に買い物に行く機会作りを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症対応施設としての案内や『子供110番』の登録やAED設置の案内を行い、地域へアピールしています。地域の方や地域の介護者へ向けた介護教室等も実施しています。		

グループホームゆうとぴ庵大阪・淡路

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催は概ね二カ月に一回実施。施設通信をを基にした報告やその他の活動を報告し意見を評価をいただきサービス向上にむけ活かしています。	利用者・家族代表(輪番制)・自治会長・地域包括支援センター職員を、令和3年度の運営推進会議の構成メンバーとし、2ヶ月に1回開催している。令和3年度は、5月は利用者と職員参加で、9月は構成委員全員参加で、11月は利用者以外の外部の構成委員参加で開催し、それ以外の3回は書面で開催している。会議では、「ゆうとぴ庵大阪淡路通信」をもとに2か月間の活動や生活の様子を報告し、その他事業所の状況や取り組みについても報告し、参加者からの意見・情報を聴き、議事録を作成している。書面開催の場合は、議事録と「ゆうとぴ庵大阪淡路通信」を配布し、説明時に意見・情報を収集することになっている。議事録は玄関のボードに掲示して公開している。	<ul style="list-style-type: none"> ・知見者の会議への出席が難しい場合は、議事録や資料を配布して報告し、意見・情報等を聞く等、参加しやすい方法を工夫されてはどうか。 ・議事録の公開については、希望する人がいつでも閲覧できるよう、ファイルの設置による公開を検討されてはどうか。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括センターの方に出席していただき情報や助言をいただいています。その他、区の連絡会等にも毎月参加し協力関係を築くよう努めています。	運営推進会議を通して、地域包括支援センターと連携している。区のケースワーカーと協働し、利用者支援を行っている。管理者が区の「グループホーム連絡会」「東淀川区認知症高齢者支援ネットワーク」「こぶしネットワーク」「住まいるネットワーク」等に主にリモートで参加し、医療・福祉に関する情報や知識を事業所の運営や感染症対策に反映している。また、ネットワークの勉強会にも参加し、事業所の研修にも活用している。手続きや報告等について不明な点があれば、電話やメールで市・区からの指導や助言を受けている。地域の市議員からも協力を得られる環境がある。	

グループホームゆうとぴ庵大阪・淡路

評価 項目	評価 項目	項目		自己評価	外部評価	
		自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を全職員が受講し周知徹底を図り取り組んでいます。玄関はオートロックですが、内部からは解錠できますし、利用者の外出意向があれば同行し、行動を制限しない支援に努めています。	「身体拘束等適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束適正化委員会」は、管理者・フロア長・計画作成担当者・コンプライアンス担当職員を構成委員とし、「マネジャーミーティング」の中で3ヶ月に1回開催している。委員会では、各フロアからの報告をもとに、拘束につながる事例の有無の確認と適正化に向けた検討を行い、議事録を作成している。委員会の議事録を全職員に回覧し周知を図っている。年間研修計画に沿って、「身体拘束廃止・高齢者虐待防止」の資料回覧研修を年2回実施し、確認印により受講を確認している。玄関・各フロアの扉は開錠の操作が必要であるが、外出の意向があれば、施設内の喫茶スペースを活用して気分転換を図る等、閉塞感を感じないよう支援している。	・現在「コンプライアンス委員会」で検討している事例の中で、身体拘束適正化に関する事例については、「身体拘束適正化委員会」の議事録にも記録されてはどうか。 ・さらなる取り組みとして、資料閲覧研修後に、研修内容の理解を確認するためのアンケート等を実施されてはどうか。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修の機会を持ち虐待に対する知識を高め、また、各自が虐待を見過ごさない環境づくりに努めています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時に活用し支援できるよう、内部研修、外部研修を通じて学んでいます。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時などに誤解がないよう説明を行い、ご質問等の有無も確認し、ご理解いただけるように努めています。			

グループホームゆうとぴ庵大阪・淡路

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や意見・相談箱以外にも直接ご意見がないか声掛けを行うようにしています。話しやすい環境づくりを心掛け、24時間体制で管理者へ連絡していただける体制を取っています。	家族の来訪時、面会時(玄関ホール)、電話・メール連絡時等に利用者の近況を伝え、意見・要望の把握に努めている。毎月「ゆうとぴ庵大阪・淡路通信」と個別の「お便り」を郵送して生活の様子を伝え、また、職員が細やかな報告や連絡に努め、管理者が24時間体制で電話・メールを受け付ける等、家族との信頼関係の構築や、意見や要望を出しやすい関係づくりにつなげている。把握した意見・要望については、管理者が直接対応したり、フロア内の申し送りノートで共有し個別支援に反映する等、内容に応じて対応している。利用者の意見・要望は会話の中から把握し、デリバリーの活用や戸外での気分転換等、可能な方法で対応できるよう工夫している。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員用の意見・相談箱も設置し把握に努め、各ミーティングにおいても職員の意見を聞き反映させています。	フロアミーティング・マネジャーミーティング・各種委員会(生活・食事・コンプライアンス・身体拘束適正化)を月に1回実施し、職員の意見・提案を、利用者のケアや支援、業務、運営、利用者の生活向上等に反映できるよう取り組んでいる。各ミーティング・委員会の議事録が整備され、委員の内容はフロアミーティングでの報告と議事録の回覧により共有している。日々の検討事項は、フロア長が職員の意見を集約し、内容に応じて管理者を交えて検討し、各フロアの「申し送りノート」で共有し迅速に対応できるよう取り組んでいる。管理者が職員に日々声をかけ、相談しやすい関係づくりに努め、随時、個別に意見を聴く機会を設けている。ユースエール企業認定、男女いきいき元気宣言事業者、男女いきいきプラス事業者、女性活躍リーディングカンパニー認証を受ける等、法人として働きやすい環境づくりに取り組んでいる。	

グループホームゆうとぴ庵大阪・淡路

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員のスキルアップや資格取得に伴う手当等の設定にて就業環境の改善に努めております。ユースエール企業認定や大阪府の男女いきいきプラス認証をいただいております。男性の育児休業取得の実績もあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要となる研修を内外で受講できるよう機会の確保に努めています。本年度は区の医師会主催の勉強会への参加や認知症実践者研修などを受講しました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や区の連絡会議を通じて更に交流の機会を増やし質の向上への取り組みを行っています。東淀川区認知症高齢者支援ネットワーク、こぶしネットワーク、住まいるネットワーク等へも参加しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時からご利用者との面談等を通じた情報収集により、より安心していただけるような関係づくりに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からご家族の意向の把握や情報収集により、より安心していただけるような関係づくりに努めております。		

グループホームゆうとぴ庵大阪・淡路

評価 自己	評価 外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な専門機関との連携を図る事により対応出来る様に努め、その時に必要なサービスの提供ができるよう対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の状態を把握しながら、生活全般での様々な協力をお願いするなど、頼られる、必要とされている、と感じていただけるような支援も大切に考え取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間の制限は設けず、少しでもオープンな環境づくりを心掛け、またご家族様にも食事介助や歩行訓練などお手伝いいただける環境を提供しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居時には馴染みの方や場所の把握に努め、ご家族の了解のもと交流が継続できるよう支援しています。馴染みの美容室の利用など、ご希望を大切にしています。	馴染みの人や場所との関係継続について、コロナ禍以前と同様の支援は困難な状況であるが、時期を勘案しながら、家族や(家族の了承の下で)友人・知人と玄関ホールで面会できるよう環境を整えている。理美容や通院での外出、法事での自宅外泊等も、家族と協力しながら実施した事例もある。また、電話や手紙・はがきを通しての関係継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との関わりが難しい方もいますが、他者とのコミュニケーションが良好な方は見守り、コミュニケーションが難しい方については職員が架け橋になりながら支援しています。		

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了に関わらず、繋がりが保てるように心掛けています。利用終了後も傾聴ボランティアやお手伝いをしてくださるご家族もいらっしゃいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	三カ月に一回「施設サービス計画書」を見直す時には利用者の意向を確認し、計画に反映しています。意向を表現しにくい方についてもその時々表情や状態を情報共有しながら把握に努めています。	利用者個々の思いや暮らし方の希望・意向について、入居時に把握した内容は、「フェイスシート」の「本人・家族の意向」「生活歴」や、「アセスメント」シートの「心身の状況」等に記録し、サービス計画や支援に反映している。大正琴の演奏や、ギター演奏に合わせた歌唱等、趣味や特技を継続できるように支援した事例もある。入居後に把握した内容は、「申し送りノート」やフロアミーティングで共有し、「フェイスシート」「アセスメント」を更新する際に追記しサービス計画や支援に反映している。把握が難しい利用者については、答えやすい質問方法を工夫したり、日頃の生活の中での表情や行動から汲み取ったり、家族からの情報等を参考に、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族より情報を頂いたり、各機関各サマリー等を活用して把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントや心身情報の書類も含め、情報共有しながら現状の把握に努めています。		

グループホームゆうとぴ庵大阪・淡路

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施、また三カ月に一回と必要時に「施設サービス計画書」を見直しています。その際にはご家族や必要な関係者の意見も取り入れながら作成しています。	入居前の関係機関からの情報と、入居時の「フェイスシート」「アセスメント」シートをもとに、初回の「施設サービス計画書」を作成している。各フロアにファイルを設置し、職員に計画内容の周知を図っている。計画の短期目標にアルファベットを、サービス内容に番号を付けて介護記録に記載し、計画と実施状況の整合性を明確にしている。毎月のフロアミーティングでケアカンファレンスを行い、利用者担当職員のモニタリングをもとに、計画内容に沿って検討している。その結果をもとに、計画作成担当者が毎月「モニタリング表」を作成している。必要時には随時、定期的には3ヶ月に1回、計画の見直しを行っている。見直しの際は、「モニタリング表」の評価、「アセスメント」での再アセスメントをもとに、フロアミーティングのケアカンファレンスに位置づけて検討している。主治医など関係職員からの意見・助言等があれば、「モニタリング表」に記録している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一枚の記録用紙にご利用者個々の一日分の全ての情報や支援内容を記録することで、把握しやすく見落とし難い記録用紙にしています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な希望やニーズに対応できるよう、取り組んでいます。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童デイサービスへの訪問や交流会、近隣での買い物や図書館の利用など、その時々で個々の状況に合わせた支援をしています。		

グループホームゆうとぴ庵大阪・淡路

評価 項目	評価 項目	項目		外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
		自己評価 実践状況	自己評価 実践状況		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に意向を確認し、ご利用者・ご家族の希望に添った受診ができるよう支援しています。内科・歯科・心療内科の定期的・随時の往診も受けられるよう支援しています。	契約時に事業所の医療体制について説明し、利用者・家族の意向に沿った受診を支援している。定期的・随時に、内科・歯科・心療内科の往診を受けられる体制がある。往診日を含む週2回、看護師の訪問があり、往診医と医療連携が図られている。通院受診については、主治医の要請による場合は職員が同行し、それ以外は状況に応じて、職員または家族が同行している。受診については「介護記録」の医療欄の相談・結果の項目に記録し、訪問看護も同様に看護師記録の項目に記録している。内容に応じて、申し送りノートにも記入し、職員間で情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は24時間連絡が取れ、その都度に看護いただく体制です。また定期的な訪問についても医師と同日週1回、訪問看護週1回有り、情報共有のうえ看護記録し、必要時には医師や関係者へ報告いただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医師や看護師、医療連携室や相談員との情報交換に努めています。早期退院に向けては医師やご家族と相談しながらご本人にとって最善であるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に向けた方針を「看取りに関する指針」「重度化した場合の対応にかかる指針」に明示し、契約時に利用者・家族に説明して同意を得ています。また年間研修計画に「終末期における看取り」という研修を行い、職員に周知を図っています。	重度化・終末期に向けた事業所の方針を、契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」「看取りに係る指針」に沿って説明し、同意を得ている。重度化・終末期を迎えた段階で、主治医から家族に状況説明を行い、今後の方針について家族の意向を確認している。家族に看取り介護の希望があり、対応可能な状態であれば、看取りに向けたサービス計画を作成し、主治医・看護師と連携しながら家族の意向に沿った支援を行っている。経過については、「発症経過シート」に記録している。年間研修計画に入れ、「終末期における看取り」研修を行っている。	

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの操作や救急救命の講習などを学び、緊急対応等についても研修を実施し実践に備えています。	/		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練実施や地域の協力体制の確保等に取組んでおります。ご家族には広域災害等避難場所のお知らせも行い、また自治会の方には運営推進会議を通して体制について報告しています。			年2回、昼夜想定で、可能な利用者は参加し、避難誘導・消火・通報の総合訓練を行っている。大阪消防振興協会の訪問指導で、事業所の状況に応じた実践的な指導・助言が受けられる機会もある。「避難確保計画」「災害対策マニュアル」を作成し、年間研修計画に入れ「非常災害時の避難」についての研修も実施している。隣接するタクシー会社に災害時の協力依頼を行い、災害時協力について話し合っている。備蓄の支給・管理については法人が行い、水・食料・備品等を事業所の研修室に備蓄し、各フロアに非常時持ち出し袋も設置している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに寄り添い声掛けや対応するように努めています。職員間の情報共有はできるだけ記録から読み取り、日々の情報も他者に伝わってしまわないよう気をつけています。	年間研修計画に沿った「プライバシー保護」「身体拘束廃止・高齢者虐待防止」「認知症ケア」研修と、毎月の「認知症ケア」研修により、人格尊重や誇り・プライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。気になる対応については、コンプライアンス委員会でヒヤリハット事例として検討し、不適切ケアにつながらないようフロアミーティングで注意喚起している。対応が困難な利用者については、言葉かけや対応方法を管理者が助言し、また、フロア内でも協力し職員のケアも行っている。	/	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意向を確認しながらご本人の自己決定を基本に共同生活が行えるよう支援しています。自己決定を尋ねると混乱される方に対しては日々のご様子を窺いながら希望の把握に努めています。	/		

グループホームゆうとぴ庵大阪・淡路

評価自己	評価外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの希望やリズムを優先し、共同生活の場で心地良く生活ができるよう支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望の美容院の利用や昔から利用されている化粧品類等を希望される方には利用できるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事等に合わせた献立やご利用者のリクエストを取り入れた献立を提供しています。食事委員会では提供状況やご利用者の希望や摂取状況を協議し献立に反映させています。	献立と食材が委託業者から届き、各フロアで調理し、利用者個々の食事形態にも対応して提供している。献立に季節の食材や行事・節句食、郷土料理等の工夫がある。月に1回食事委員会を実施し、各フロアからの意見・要望などを委託業者に伝えている。食事委員会では、毎月の食事レクリエーション・おやつレクリエーションについても話し合い、利用者の希望や行事・節句に困った食事やおやつを企画し、各フロアで手作りしたり、デリバリーを利用し、利用者が楽しめるよう取り組んでいる。食事・おやつレクリエーションでは、利用者が参加できるよう企画している。誕生日には、リクエスト献立や手作りケーキでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量等の記録を行い一人ひとりの状態の把握に努めています。栄養バランスについては栄養管理士の献立を基本にご利用者の状況に合わせて提供しています。(必要時はとろみ剤も使用)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食着には口腔ケアを支援し、必要に応じて歯科医や口腔衛生士利用の提供を行っています。		

グループホームゆうとぴ庵大阪・淡路

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録にて一人ひとりの排泄状況やパターンを把握し、昼間はトイレでの排泄を大切にしながら支援を行っています。夜間は、安眠にも配慮しながら個別の支援をしています。	介護記録の排泄欄で利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、ニーズに応じて介護計画にも位置づけ、個々に応じた排泄支援を行っている。排泄の自立度に個人差が大きい状況であるが、必要に応じて2人介助も取り入れ、トイレでの排泄を基本として支援している。介助方法や排泄用品について検討事項があれば、フロア内で検討して申し送りノートで共有したり、フロアミーティングで検討・共有する等、迅速に対応して現状に即した支援につなげている。トイレのドアの開閉に留意し、職員間の報告は口頭でなく記録の確認で行い、声掛け誘導時は周囲に配慮する等、羞恥心やプライバシーへの配慮を周知している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分量確認など施設内の把握や取り組みだけではなく、医師や看護師にも排泄状況を報告しながら便秘予防に取り組んでいます。腸内環境を整えるヨーグルトの提供なども行っています。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴時間等はありませんが、個々の状況に応じて入浴を柔軟に行い、また、入浴が楽しめるよう月替わりの湯(しょうぶ湯やゆず湯等)を用意しています。音楽を聴きながら入浴をしていただける環境も整えています。	週2回の入浴を基本とし、一般浴槽での個浴の入浴を支援している。2人介助も取り入れ、可能な限り浴槽での入浴ができるよう努めているが、利用者の体力や状況に応じて、シャワー浴や清拭、ストレッチャーの使用等、柔軟に対応している。入浴状況は、介護記録に記録している。同性介助の希望があれば同性で対応し、入浴拒否がある場合は職員間で協力し個別の配慮で対応している。広い浴室の壁面にシールやタイルで飾りつけを行ったり、生活委員会が毎月、月替わりの湯(ゆず湯・しょうぶ湯・ミント湯・桜湯等)を企画したり、好みの音楽を流す等、入浴がより楽しめるように工夫している。	

グループホームゆうとぴ庵大阪・淡路

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせてお昼寝などできるよう支援しています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用の目的や副作用、容量を理解し服薬の支援に努めています。医師や看護師だけでなく薬剤師訪問もありますので薬についての相談等も実施しています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活全般での様々な協力をお願いするなど、頼られる、必要とされている、と感じていただけるような支援も大切に考え取り組んでいます。家庭菜園などができる環境も提供し支援しています。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には散歩や近くのスーパー、馴染みの商店街、喫茶店へ個別に対応し出かけています。初詣や花見、菖蒲園等、季節ごとの外出も行っています。	コロナ禍のため通常の外出は困難な状況であるが、時期や時間帯・場所等を勘案し、近隣への散歩や買い物への外出支援を再開したり、花見やハロウィーンの外出を行う等、可能な範囲で外出の機会作りに取り組んでいる。また、ベランダや玄関先での外気浴やプランターの水やり等、戸外で気分転換ができるよう支援している。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者やご家族の希望や力に応じて本人様がお金を所持、利用できるよう支援しています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話を取り次いだり、入居者様から希望があれば支援しております。ご家族との電話のやり取りやご友人と手紙のやり取りをされているご利用者もいらっしゃいます。		

グループホームゆうとぴ庵大阪・淡路

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室等の共有スペースは明るく広いスペースを取っています。テラスではソファ等を配置し寛いでいただけるよう配置しています。全フロアではないですが畳利用スペースや懐かしい日用品を設置し回想できるようなスペース等も用意しています。	各フロアに、キッチン・談話室(ダイニング・リビング)、長い廊下の途中にテラススペースがあり、広い生活空間が確保されている。明るく広い談話室に、複数のテーブル席・個別席・ソファが設置され、床に座椅子を置く等、利用者の希望や生活習慣に応じて居心地よく過ごせるよう配慮している。各フロアの生活委員が中心となり、エレベーターホールや談話室の壁面に季節や行事に因んだ飾り付けを行い、テラスに手作りの神社や手作りの樹を設置する等、季節感を取り入れている。テラスに、昔懐かしい日用品や調度が置かれたり、ソファや長椅子を設置する等、フロア毎に環境づくりに工夫している。長い廊下は、歩行練習や生活リハビリにも活用されている。可能な利用者が洗濯物干しや洗濯物たたみ、居室や共用空間の清掃、食事・おやつレクリエーションに参加できるよう支援し、生活感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室でのテーブル位置やテラスを自由に使用して頂く等も工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みの家具なども持ち込んでいただき、ご利用者の希望を取り入れています。居心地や安全・安心に配慮するように取り組んでいます。	居室も広く、ベッド・クローゼット・テーブル等が備え付けられている。生活習慣や希望に応じて、床に布団が敷かれている居室もある。筆筒・こたつ・座椅子・テレビ等の使い慣れた家具や、家族の写真・仏壇・ぬいぐるみ・ギター等の馴染みの物・趣味の物が持ち込まれ、その人らしさを感じられる。入居時に自宅訪問する場合も多く、自宅の環境や家具の配置等を、入居後の環境づくりに活かしている。段差解消・動線の確保など、車いすや歩行器でも安全に移動できるよう環境整備を行っている。居室担当職員を設け、フロア長が家族と連絡をとりながら、衣替えや環境整備の支援を行っている。	

グループホームゆうとぴ庵大阪・淡路

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各会議を中心に安全な環境づくりに取組んでおります。		